

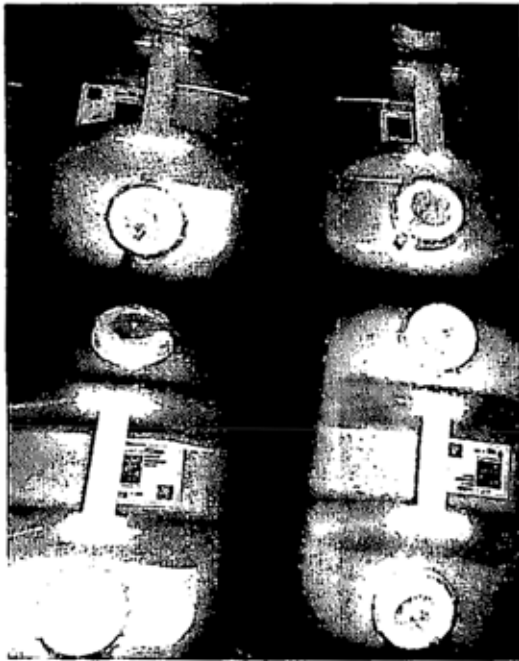
QRシールで廃棄物情報管理

LSIメデイエンスがシステム導入

臨床検査や医療関連サービスを手掛けるLSIメデイエンス(旧三菱化学メデイエンス)は今年度から、志村事業所(東京都板橋区)で排出される廃棄物にマニフェスト情報が発録されたQRシールを貼付し一括管理できる廃棄物管理システムを導入した。医療廃棄物を多く扱う同社は排出事業者責任の徹底を目指して、トレーサビリティに対応した電子マニフェストを導入。さらに今回、人為的なミスを防止することを目的にQRシールを貼付、廃棄物を部門ごと、種類ごとに管理できる体制を整えた。同システムは廃棄物管理のトータルソリューションサービスを提供するイーシス(東京都新宿区)が開発した。

イーシスが開発

同社は廃棄物管理に際し、排出事業者責任徹底の観点から電子マニフェ



廃棄物を入れた容器にQRシールを貼付して部門ごとに管理

ストの導入を進めてきた。「トレーサビリティ」ができることが企業としてのアピールポイントになると判断し、2010年4月からトレーサビリティに対応した電子マニフェストシステムを採用した。導入から4年が経過し、さらに排出事業者責任を徹底できる仕組みを検討した結果、廃棄物ごとにマニフェスト情報や容器番号などが登録された、トレーサビリティに対応したQRコードの付いたシールを貼り付けて管理することとした。

技術部志村調整グループの白崎昭博氏は導入の経緯について、「それぞれの廃棄物を適正処理できる処理業者に委託しなければならず、間違えて異なる業者に出してしまうことを防止できる仕組みを社内で作らなければならぬと考えた。また、収集運搬会社が誤って別の処分場を持って行ってしまつたということも防ぐ仕組みを検討し、今回のシステムを導入した」と話す。検討の際には、実際に収集運搬を手掛ける日本メディカル・ウェイスト・マネジメン

トも参加した。これまでは容器に貼めた廃棄物を所定の場所に出すだけだったが、それぞれの部署ごとにQRシールを貼り付けて出すことを義務付けた。これにより排出者責任への意識付けが社内浸透し、人為的なミスもほとんどなくなったといふことだ。

同システムを貼付することで排出する部門ごと、廃棄物の種類ごとの管理が可能になった。「これまででは事業所で一括してしか管理できなかったが、部門ごとどのような廃棄物がどのくらいの量で排出されるのかが把握できるようになった」といふ。これを生かし、部門ごとに廃棄物発生状況を検証し、各部門の廃棄物排出量の削減にもつなげていきたい考えだ。QRシールは、1センチメートル×1センチメートルの大きさで、コストも安く済むといふ。

同事業所では病院からの委託を受けて血液や尿などの検査を行っている。医療性廃棄物を多く扱っているため、より適正処理の徹底が求められる。また、検査の検体は個人情報となる。同システムで追跡管理することで、この個人情報を含む廃棄物を適正に処理したことを証明することができるといふ。QRシールは医療所への導入も検討している。今後は志村事業所での成果を検証し、他の事業所への導入も検討していきたい考えだ。